



第1113号

令和6年3月15日発行

目次	
能登半島地震支援金.....	2
秘伝「信州教育の極意」脱稿.....	2
産育休中職員対象セミナー.....	3
アフタヌーンセミナー.....	3
会員アンケート報告.....	4
災害見舞金ネーミング選考委員会.....	5
職員録入力にかかわるお願い.....	5
第4回臨時総会報告.....	6~7
収支予算書.....	8~10
代議員選挙公示.....	11
各種補助金額一覧.....	12
職員の異動について.....	12
世界の学校.....	13
今月の一枚.....	14
100年館の絵.....	14



退任のご挨拶



研究調査委員会



教育研究所での講話



会長室にて



上高井校長会での演奏

令和2年（2020年）から4年間信濃教育会会長としてお世話になりました。ありがとうございました。この間、会員の皆さまのために何ができたのか、と問われると自信のない点多々ありますが、過ぎたことは振り返らない、が私のモットーでありますので、この思いは次の仕事に生かしてまいりたいと思います。

「信州教育」は、教育とは何かを問い続け、子どもの幸せの実現に日々努力してきた教師たちの歴史であります。そして信濃教育会はその教師たちが互いに磨き合い、支え合うためのものです。「信州教育」が輝き続けることと「信濃教育会」がそこにあることは表裏一体であります。

信濃教育会の会員の皆さまには、子どもたちの幸せのため、そして豊かな社会実現のため、今後ともご尽力いただくことを期待しております。

信濃教育会会長 武田育夫

能登半島地震 支援募金

2,672,445円 をお届けしました

令和6年（2024年）1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」において被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。信濃教育会としての募金を募ったところ、郡市教育会を通して多くの皆様から温かなご支援をいただきました。総額2,672,445円の募金が集まりましたことをご報告いたします。お寄せいただきました募金は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の「災害子ども教育支援金」を通して、子どもたちの就学や学習環境整備のための支援活動に役立てていただこうと思います。3月7日（木）に「信濃教育会」の名前で長野市旭町郵便局にて募金の振込を行いました。皆さまのご協力に御礼を申し上げますと共に、被災された地域の日も早い復興を心から願っております。



秘伝「信州教育の極意」脱稿

今を生きる教師が、信州教育の先達が残した言葉について、日々の実践を通してどう受け止めたのかを綴り、信州教育の不易なるもの＝「信州教育の極意」として紡ぎ出しました。

【編集委員より】

- ・あの時代に、個別最適な学びとか協働的な学び、多様性を包み込むといった言葉はなくても… ずっと大切にしてきたことは今も昔も変わらない。
- ・先達が教師として生きた道のりを追う中で、教師として生きるために大切にすべき普遍的な考え方、教師としての在り方に触れ、自分なりに、先達と深い「対話」ができたと思っている。
- ・この編集委員会に参加していなければ、恐らく私は、『島崎藤村』を読むことはなかったと思う。今では、藤村作品が私の座右の書となっている。
- ・林芋村との出会いは、教師という職業に憧れ、子どもたちとの生活に夢をもっていた頃の熱意を思い起こすきっかけとなった。

ついに原稿を書き終わりました！



信濃教育会では現在、この『秘伝「信州教育の極意」』の他、『理科手引書』や『信州の教師基礎基本』の編集を進めています。長野県の先生方が大切にしてきたことや授業づくりのポイントなどを県下各地からお集まりいただいた編集委員の皆さんにまとめていただき、先生方のお役に立てる本にしたいと考えています。

「産育休中の教職員を対象としたセミナー」

体験談と仲間との交流で、復帰も**安心**！

1月16日(火)10:00～12:00 オンライン 参加者23名

現場を離れている間の学校の変化を知りたい、子育てでも大変なのに復帰して仕事と両立できるか…等の悩みや不安を抱えている産育休中教職員を対象としたセミナーが開催されました。

パネリストや会員の方から
勇気をわけていただきました。
交流会は、**ざっくばら**んに
復帰についてお話が聞けて
良かったです。

なかなか相談できる人も
なく、不安ばかりが大きくな
っていましたが、お話を聞
いて「**なんとかなるかも**」と
前向きな気持ちを持つこと
ができました。

育休中は**社会に取り残されているよう**で孤独を感じ
るので、ぜひ継続して開催してほしいです。

☺☺ Afternoonseminar 16時からのオンライン お気軽にご参加ください。☺☺

一昨年度から企画しているアフタヌーンセミナー。今年度は下記のテーマで開催しました。

旬な話題をテーマに毎回識者や現場の先生方をお招きして語り合い、実践をお聞きしたりゲストの先生よりご示唆をいただいたりしています。柔らかなカジュアルなセミナーとなっています。

	期日	R5年度	テーマ	内 容
第1回	5/16 (火)	ミドルリーダーの学校づくり（ミドルリーダー論） ～ミドルリーダーがどのように学校づくりに参画するか／学校づくりの要は【ミドルリーダー】 パネリスト ナラティブコミュニケーション研究所長 佐藤 敬子 さん 篠ノ井西中学校長 宮崎 桂子 さん 三郷小学校 研究副主任 松澤 有里子 さん		
第2回	6/20 (火)	西田哲学って何？（信州の教師はなぜ西田哲学を学んだのか？） パネリスト 信州大学教育学部准教授 高柳 充利 さん		
第3回	7/18 (火)	ちょっと苦手なICTをアドバイザーから直接学んで苦手意識を克服しよう！ ～授業観が変わるICT活用って一体なんだ？～ パネリスト 信州大学教育学部 准教授 佐藤 和紀 さん		
第4回	8/29 (火)	「探究」する学びをつくるとは（プロジェクト型学習） ～なぜ「探究」する学びが求められたのか？～ パネリスト 一般社団法人 こたえのない学校 藤原 さと さん		
第5回	9/26 (火)	『オルタナティブな教育』って？ ～オルタナティブスクールではどんな教育が行われているの？～ パネリスト 株式会社アソビジ 中川 綾 さん		
第6回	10/26 (木)	研究学級は長野県の教育に何を残したのか パネリスト 信州大学附属長野小学校 研究主任 有賀 功太郎 さん 伊那市立伊那小学校 研究主任 折山 智昭 さん		
第7回	12/21 (木)	魅力的な学級通信のつくり方 パネリスト 東御市立和小学校 樋口 亜紀子 さん 大町市立大町北小学校 原 拓男 さん		
第8回	2/26 (月)	ICT研究調査委員会 公開委員会 委員が視察した先進校での学びを報告しICTを活用した授業づくりについて考えます。 発表者 ICT研究調査委員 助言者 信州大学教育学部 准教授 佐藤 和紀 さん		
第9回 15:10～	3/21 (木)	信州教育とは？ その歴史から考える 武田会長最後のアフタヌーンセミナーです		

来年度も実施予定です。開催日、テーマ等はその都度、ホームページ、SNS等でご案内します。

信濃教育会 会員アンケート 報告

お忙しい中アンケートにご協力いただきまして誠にありがとうございました。本年度は小中校合わせて123校、1588名中1425名の方から回答をいただきました（回答率89.74%）。結果の一部（抜粋）をお知らせするとともに次年度以降の事業に生かして参りたいと存じます。

■今後、信濃教育会で必要と考える研究調査活動について

- ・働き方改革の中、大切なものがなくなっている気がします。大切なものが信濃教育会として何なのか発信していただきたい。
- ・研究調査の動向や成果等があまり周知されておらず認知度が低いことが課題ではないか。
- ・探究学習にかかわる調査研究。困っている学校が多いため。

■講座・講習について

- ・木曽馬の講座とっても良かったです。同様の内容を県内各地で行ってほしい。
- ・リラックスは必要。そのための活動はよい。
- ・どうしても北信が中心になりがちなので南信での講習・講座を増やしていただけたらと思います。

■自主的校内研修補助事業、短期視察補助事業、学び続ける教師への助成事業について

- ・会員の自主的な事業を力強く後押しする事業です。予算は厳しいと思うがぜひ継続をお願いします。
- ・学び続ける教師、アップデートし続ける教師にとって、学びたいときに補助がいただける仕組みは残してほしい。
- ・学び続けることは大切であるが周知されているとは思わない。現状、一部の人のみの恩恵になっている。

■全県研究大会について

- ・昨年度からの全県研究大会の改革には驚きました。
- ・立候補制はとてもよいと思うので継続を望みます。

■信濃教育会のあり方について

- ・今、信濃教育会は大きく変わる気配を感じます。このところの改革をみていると熱意が伝わってきます。
- ・大きな変革が進められていることは大変よい。引き続き時代に合った教育会を模索していただきたい。
- ・やらされる研究・研修ではなく、会員の主体的な取組を大切にしていただけようになっていることが有難い。
- ・会員でありながら知らない情報が多い。研究補助なども、どの学校にも還元してほしい。
- ・先生方は多忙で教育会に向き合う時間がない。
- ・災害見舞金を活用させていただいた。丁寧に対応いただき本当に助かりました。是非継続を。

＜アンケートを受けて＞

○立候補制の全県研究大会の方向は多くの支持をいただいている。開催校に負担がかからないよう今後も運営推進を進めてまいります。

○広報について周知の必要を感じる回答が多かった。

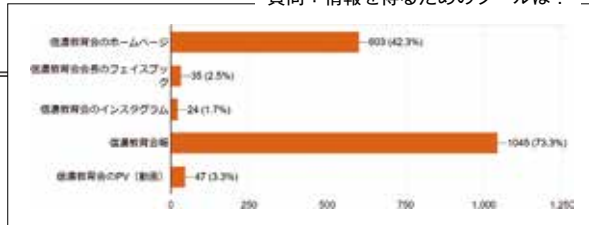
右アンケートのように会報やHP等を活用していただければと思います。今後も引き続き情報発信の充実に努めてまいります。

○若手会員との協議から実施に至ったリラックスして参加できる講座は継続を望む声が多く、教師塾Sの開設とともに今後も継続してまいります。

○学校の多忙感を訴える回答が多かった。助成金の申請や報告書を簡単に、またオンラインやクラウドの活用による参加のしやすさ、気軽さなども考慮に入れた講座等の企画を考えていきます。

○これまでの信濃教育会らしさを継承しつつ、会員の声やニーズに応じ、時代に合わせて改革を進めてまいります。今後ともよろしくお願いします。

質問：情報を得るためのツールは？



「災害見舞金ネーミング選考委員会」の活動について

◇ 活動内容

◎課題「どうすればこの事業が会員に周知され、当たり前のように利用されるようになるか？」



知らなかったわ

こんないい事業があったのか！



◎取組「会員にニックネームを募集し、親しみやすい名前を決める活動を通して、事業について知ってもらい、いざという時に多くの会員に利用してもらえようようにしたい！」

◇今後の予定：募集案内・募集受付（1学期）→会員投票（2学期）→当選発表（3学期）

◇会員の投票（グーグルフォームを使用予定）により、採用作品（次点や最終候補作品にも）にはQUOカードを贈る予定です。ぜひ、ふるってご応募ください！

なお、応募方法等の詳細は、新年度になってからご案内します。

◇ 令和5年度委員会のメンバー ※各地区の名前の先頭は代表者（敬称略）

北信：西澤彩奈（長野北部中）・今田晴美（高山中）・島田俊哉（山ノ内中）・牧郁（飯山養護）

東信：源関昭博（坂城中）・赤羽雄太（小海中）・宮下香織（塩尻小）

中信：池戸奈都美（池田小）（副委員長）・白鳥健司（木曽町中）・上條示雄（生坂中）・浅樋和輝（豊科南小）・井上聡大（奈川小中）

南信：原啓吾（箕輪中部小）（委員長）・唐澤建聖（小井川小）・小山ひかり（旭ヶ丘中）

「長野県学事関係職員録」にかかわるお願い

令和6年度の原稿入力・職員録購入の申込みにかかわる日程は下記のとおりです。ご確認ください、作業を進めていただきますようお願いいたします。

原稿入力

3月7日〔木〕 原稿入力にかかわる文書、申込書を各学校へ送付

3月26日〔火〕 ユーザコード（ID）をメールで各学校へ送信 1次入力開始

4月11日〔木〕 午前9時 1次入力締め切り

4月19日〔金〕 午前8時30分 2次入力開始（修正入力が可能になります。）
●修正の有無にかかわらず、必ず画面を開いて確認してください。確認後には完了ボタンを押してください。

4月23日〔火〕 昼12時 2次入力締め切り

購入申込み 締め切り

4月18日〔木〕 小・中・特別支援・義務教育学校 → 郡市教育会へ

※高校・大学・各種学校、他 → 4月22日（月）までに信濃教育会へ

問い合わせ

〔原稿入力について〕
〔購入申込みについて〕

雑誌図書編集部
総務・会計部

電話 026-232-6994
電話 026-232-2470

未来に生きる子どもたちに、学校や教師は どのように変わっていけばいいのだろうか

令和5年度第4回臨時総会を2月6日（火）大雪のため参集の予定を変更してオンラインにて行った。代議員数50名中49名の出席者により開催し、3つの議案が全て承認された。情報交換では「長野県教育課題について考える～学校や教師は、どのように変わっていけばいいのか～」をテーマにグループでの意見交換を行った。以下臨時総会の概略を報告する。

【武田会長開会のあいさつ】

- 令和6年は元旦から大きな災害に見舞われた。能登半島地震である。多くの命が奪われた。また、今も被災で不自由な生活を余儀なくされている方が数多くいる。心が痛む。私たちにできることは限られているが、信濃教育会は、日本ユネスコ協会連盟の「災害子ども教育支援金」を通して被災地の子どもたちの就学・学習環境の整備のための募金活動を行う。多くの学校で協力いただければありがたいと思う。
- また、翌日には羽田空港で日航機が炎上した。大型旅客機が炎をあげ崩れ落ちていく様が、リアルタイムで放映された。衝突から18分で12人の乗員を合わせた計379人全員が機外への脱出に成功したことは、「羽田の奇跡」と言われたらしい。この奇跡をもたらしたのは、さまざまなケースを想定した日々の学習と、機長との連絡がつかない状況における、客室乗務員の判断であったらしい。
- 昨年、宮城県に防災教育に関する視察に行ってきた。2つのことが強く印象に残っている。
 - ・全員が無事に高台に避難した小学校。避難の際、6年生の子が1年生の子に声をかけ励まし、ある子は1年生を背負って避難した。普段から異学年での学習・活動を重視しており、そのたまものであるという話。
 - ・校庭に避難するのが最適なのか、検討をしている中学校。校庭が必ずしも安全とは限らない。状況に応じて避難場所を変える、臨機に判断し行動できる力を付ける避難訓練を研究しているという話。
- 東日本大震災から13年が経つ。翌日には長野県北部地震があった。私たちは何を学んだのか。また今回の能登半島地震から何を学ぶのか。教室から無言で決められた経路で校庭に避難し、人員確認をし、校長先生が講評し、消防署の方が話をする、そういった避難訓練

だけで、子どもや職員の命を守ることができるのだろうか。

- 身体はもう大人と遜色ない中学生は大人の助けを借りて避難する。一方近隣に住む一人暮らしの高齢者はどうやって避難するのだろうか、ということ想像しない教員や中学生を育てていいのだろうか。
- 学校の仕組みを変え、教員の意識を変え、学校を開いていく。案外避難訓練を変えることが近道なのかもしれない。

【議 事】

- (1) 第1号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会事業計画（案）の承認」に関する件
 - 新規事業である信州教師塾Sについて、以前会長自ら視察していただいた際に、実際に当日と同じような内容で行動しとてもリフレッシュできた。学校現場の事をひと時忘れ初任に戻ったような楽しく充実した時間を過ごせた。是非皆さん奮ってご参加いただきたい。上小教育会としても全力でこの講座をすすめていきたい。
 - 信州自然めぐりについて、アドベンチャースタッフにご指導いただき初心者でも取り組みやすいようになっている。「明日のエネルギー充電・リフレッシュ」を目的に、諏訪教育会でも全力ですすめていきたいと思う。
 - 全県研究大会については多くの個人・グループが立候補されており、大変嬉しく思う。今後に向けてという事で、1つ目は複数年研究についてどの程度まで受けとめていくべきなのか考える必要がある。2つ目はグループ研究のあり方について、学校をまたいでの合同研究をグループとして研究をしても良いのではないかと思う。
 - 今年度、個人にて御代田南小の先生が発表したが、

その先生も昨年度の研究発表を聞いて自分もやりた
いと思ったと話していた。全てではないが、一つ
一つの学校が研究について深く考え、それを他に広げ
ていく様子や意識が候補者や参加へと繋いだのでは
ないか。

○下伊那の委員会研究発表にて、今までは決められた
委員会が発表していたが、それを『手上げ方式』で
評価とまとめの会を行うようにした。教育課程の研
究協議会でも再来年度よりそのような形で取り組む
予定となっている。自分から手を挙げて自主的・主
体的に取り組む意識が増えてきていることが増加に
繋がったのではないかと。予算の面で考えると難しい
と思うが、学びたい先生方の気持ちを汲んでいただ
くよう考えていただきたい。

○会員も管理職も全県研究大会のあり方の良さを認識
してきている。この拡大の動きは今後も進んでいく
と思う。その中で予算的なものとどう折り合いをつ
けるか。学校型については、その学校の研究をしっ
かりと補助していただき、学校の自立を促してい
ただきたい。

○昨年度に引き続き今年度も調査委員を務めた中で、
「自由で縛りが無い」「きちんとお金がついてくる」
というスタイルがとても良く、現場に広がっている。
今は学校単位だと10万、個人型だと個人7万・
学校3万となっている。広めていくことを考えると
10万は出し過ぎに感じる。個人的には1、2万でも
研究によっては足りると思う。

○おそらくその10万には研究費用だけでなく講師謝礼
も含まれているのではないかと。不勉強で申し訳ない
が、金額について別立てにしているのか、また共同
研究者全員一律なのか等、詳しく説明いただきたい。

○（研究調査部長）共同研究者への謝金については全
く別立てとなっている。共同研究者へは6万円渡し
ているが、学校に渡す金額とは別である。

○その仕組みであれば、学校型の10万は何に使って
いるのか。M代議員の意見同様金額については検討が
必要になると考える。

(2) 第2号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会収
支予算（案）の承認」に関する件

(3) 第3号議案「令和6年度公益社団法人信濃教育会資
金調達及び設備投資の見込み（案）の承認」に関する件

【報告・連絡】

(1) 第138回信濃教育会総集会北安曇大会の計画

(2) 令和6年度年間行事予定

(3) 会報3月号掲載の代議員選挙公示について

(4) 令和6年度雑誌『信濃教育』の発刊について

(5) 教育実践誌『ふるさとの大地』発刊のお知らせ

【情報交換】

テーマ「長野県の教育課題について考える～学校や教師
は、どのように変わっていけばいいのか～」

○下伊那では特別支援学級を増設する学校がある。様々
な個性溢れる子ども同士のかかわりというものは学ぶ
ことが多い。高校には特別支援学級がないため、中学
校ではインクルーシブ教育を取り入れ、原級に慣れて
いく必要がある。また、支援を要する子どもたちの人
数も増えていく中で教員だけでは限界がある。これか
らは行政や地域の人たちとも連携していく意識改革が
益々必要になるのではないかと。思う。

○不登校・不適応の件だが、小学校にも課題はあるが、
特に中学校では環境が変わることや学習面が複雑にな
るため、適応が難しい現実がある。地域の人の活用と
いうことで、ある小学校では校内中間教室で地域の人
に話し相手になってもらうという取り組みをしている。
このように地域の人材を活用し、不登校の子ども
や発達障がいのある子どもにかかわっていただくよう
にしている。また、発達障がいについて、コミュニ
ティスクールなどの場で積極的に発信し、より地域
の方にかかわっていただく事も視野に入れていくと共
に、今の子どもたちに合わせて学校はどうあるべきか
考える必要がある。

【武田会長閉会のあいさつ】

○貴重なご意見をいただき、今後の発展につなげていき
たい。信濃教育会や郡市教育会というものは先生たち
が自分たちで会費を払い、自分たちで研修・講習を受
けるという、自ら取り組む姿が大切であり、それは文
部科学省の研修体系や県教委が示している教員のつけ
る力とは違うものである。自分たちが自分で参加して
いく事が大事だからこそ、我々は会員が1日来て、リ
フレッシュすることにより、また新たな実践に取り組
んでいこうと思えるような講習・講座等を用意してい
る。来年度では、白樺湖にてカヌー体験が出来る『信
濃の自然めぐり』や今年はALTの先生方と楽しむ
『ALTとぶらっと善光寺』という講座があったが、
来年度は松本城を開催地としている。

○特に、61歳以上の方を対象とした『教師塾S』という
講座では、そば打ち体験が出来る山形村開催と、カラ
オケレストランで昭和の唄を歌い、演奏を自由に楽し
める上田開催の2つを用意している。身体には気を付
けて元気にそれぞれの学校で頑張っていただきたい。

令和 6 年度
公益社団法人 信濃教育会 収支予算書

令和 6 年 1 月 23 日 理事会提案 令和 6 年 1 月 23 日 決議
令和 6 年 2 月 6 日 臨時総会提案 令和 6 年 2 月 6 日 承認

公益目的事業収支予算書

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

(単位 = 円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	350	359	△9
(2) 受取会費	146,170,240	148,239,000	△2,068,760
(3) 事業収益	38,284,500	38,724,500	△440,000
1 購読収益	13,368,000	13,908,000	△540,000
2 受取印税	24,400,000	24,400,000	0
3 講座受講料	366,500	366,500	0
4 会館使用料	150,000	50,000	100,000
(4) 受取負担金	0	0	0
(5) 受取寄付金	0	0	0
(6) 受取補助金	5,959,380	0	5,959,380
(7) 雑収益	728,900	408,950	319,950
経常収益合計 (A)	191,143,370	187,372,809	3,770,561
2 経常費用の部			
【公益目的事業費】	181,843,894	186,936,571	△5,092,677
(1) 職能研修事業費	35,754,800	38,146,000	△2,391,200
1 研究調査費	5,916,800	3,675,000	2,241,800
1 委員会費	2,500,000	1,632,000	868,000
2 旅費交通費	1,015,000	395,000	620,000
3 通信運搬費	250,000	193,000	57,000
4 消耗什器備品費	0	0	0
5 消耗品費	128,000	80,000	48,000
6 印刷製本費	1,000,000	800,000	200,000
7 諸謝金	839,000	430,000	409,000
8 雑費	184,800	145,000	39,800
2 福祉教育資料研究調査費	346,000	296,000	50,000
1 委員会費	260,000	210,000	50,000
2 旅費交通費	24,000	24,000	0
3 通信運搬費	3,000	3,000	0
4 支払助成金	40,000	40,000	0
5 支払寄付金	0	0	0
6 雑費	19,000	19,000	0
3 教育研究所運営費	4,337,000	4,780,000	△443,000
1 委員会費	230,000	186,000	44,000
2 旅費交通費	2,119,000	2,519,000	△400,000
3 通信運搬費	70,000	70,000	0
4 消耗什器備品費	0	0	0
5 消耗品費	266,000	286,000	△20,000
6 印刷製本費	500,000	552,000	△52,000
7 諸謝金	992,000	992,000	0
8 支払負担金	40,000	40,000	0
9 雑費	120,000	135,000	△15,000
4 講習講演会費	4,940,000	5,672,000	△732,000

1 旅費交通費	1,800,000	2,146,000	△346,000
2 通信運搬費	53,000	122,000	△69,000
3 消耗品費	176,000	245,000	△69,000
4 印刷製本費	70,000	35,000	35,000
5 賃借料	170,000	220,000	△50,000
6 諸謝金	725,000	985,000	△260,000
7 支払助成金	1,280,000	1,430,000	△150,000
8 雑費	666,000	489,000	177,000
5 教育研究大会費	9,830,000	8,960,000	870,000
1 旅費交通費	2,390,000	2,330,000	60,000
2 通信運搬費	205,000	205,000	0
3 消耗品費	105,000	165,000	△60,000
4 印刷製本費	130,000	120,000	10,000
5 賃借料	300,000	300,000	0
6 諸謝金	2,300,000	2,000,000	300,000
7 支払負担金	80,000	100,000	△20,000
8 支払助成金	3,800,000	3,300,000	500,000
9 委託費	300,000	300,000	0
10 雑費	220,000	140,000	80,000
6 視察派遣助成費	1,945,000	6,323,000	△4,378,000
1 委員会費	200,000	570,000	△370,000
2 旅費交通費	500,000	600,000	△100,000
3 通信運搬費	33,000	58,000	△25,000
4 支払負担金	330,000	380,000	△50,000
5 支払助成金	862,000	4,660,000	△3,798,000
6 雑費	20,000	55,000	△35,000
7 教育会研修助成費	1,000,000	1,000,000	0
1 支払助成金	1,000,000	1,000,000	0
8 応募型研修助成費	7,440,000	7,440,000	0
1 旅費交通費	235,000	236,000	△1,000
2 通信運搬費	50,000	50,000	0
3 消耗品費	80,000	80,000	0
4 印刷製本費	0	0	0
5 諸謝金	56,000	56,000	0
6 支払助成金	7,000,000	7,000,000	0
7 雑費	19,000	18,000	1,000
(2) 教育図書研究調査事業費	26,995,000	28,242,000	△1,247,000
1 教科用図書研究委員会費	8,337,000	9,200,000	△863,000
1 委員会費	5,200,000	6,552,000	△1,352,000
2 旅費交通費	750,000	690,000	60,000
3 通信運搬費	99,000	95,000	4,000
4 消耗什器備品費	100,000	100,000	0
5 消耗品費	1,330,000	1,108,000	222,000
6 諸謝金	314,000	240,000	74,000
7 雑費	544,000	415,000	129,000
2 学術図書研究委員会費	18,658,000	19,042,000	△384,000
1 委員会費	260,000	275,000	△15,000
2 旅費交通費	100,000	100,000	0
3 通信運搬費	2,500,000	2,500,000	0
4 消耗什器備品費	0	0	0
5 消耗品費	80,000	80,000	0
6 印刷製本費	12,609,000	12,978,000	△369,000
7 諸謝金	1,626,000	1,626,000	0

	8 期首商品棚卸高	14,400,000	14,300,000	100,000
	9 期末商品棚卸高	△14,500,000	△14,400,000	△100,000
	10 雑費	1,583,000	1,583,000	0
(3)	生涯学習振興事業費	4,420,000	4,301,000	119,000
1	教育博物館運営費	2,150,000	2,041,000	109,000
1	委員会費	410,000	337,000	73,000
2	旅費交通費	574,000	638,000	△64,000
3	通信運搬費	131,000	131,000	0
4	消耗品費	170,000	170,000	0
5	印刷製本費	435,000	335,000	100,000
6	諸謝金	100,000	100,000	0
7	支払助成金	301,000	300,000	1,000
8	雑費	29,000	30,000	△1,000
2	生涯学習推進支援事業費	2,270,000	2,260,000	10,000
1	委員会費	30,000	40,000	△10,000
2	旅費交通費	120,000	120,000	0
3	通信運搬費	140,000	140,000	0
4	消耗什器備品費	150,000	150,000	0
5	消耗品費	200,000	200,000	0
6	修繕費	150,000	150,000	0
7	光熱水料費	470,000	470,000	0
8	保険料	200,000	180,000	20,000
9	諸謝金	100,000	100,000	0
10	委託費	570,000	570,000	0
11	雑費	140,000	140,000	0
(4)	事業共通費	114,674,094	116,247,571	△1,573,477
1	役員報酬	5,346,400	5,184,440	161,960
2	給料手当	63,777,250	62,653,160	1,124,090
3	退職給付費用	2,660,900	2,783,900	△123,000
4	福利厚生費	10,773,400	10,592,400	181,000
5	会議費	454,300	475,300	△21,000
6	委員会費	154,584	145,061	9,523
7	旅費交通費	649,000	712,950	△63,950
8	渉外応接費	259,600	203,700	55,900
9	通信運搬費	450,100	674,000	△223,900
10	減価償却費	8,866,511	9,048,075	△181,564
11	消耗什器備品費	0	0	0
12	消耗品費	1,607,500	2,022,000	△414,500
13	修繕費	192,900	202,200	△9,300
14	印刷製本費	584,100	611,100	△27,000
15	光熱水料諸費	9,261,129	11,997,200	△2,736,071
16	賃借料	3,894,000	3,055,500	838,500
17	保険料	217,320	244,485	△27,165
18	租税公課	2,994,000	2,994,000	0
19	支払負担金	2,076,800	2,172,800	△96,000
20	雑費	454,300	475,300	△21,000
【管理費】		43,516,285	42,218,570	1,297,715
1	会議費	956,800	951,900	4,900
1	総会費	700,000	720,000	△20,000
2	理事会費	80,000	50,000	30,000
3	監事会費	20,000	30,000	△10,000
4	共通会議費	156,800	151,900	4,900
2	会報発行費	3,181,000	3,181,000	0
1	旅費交通費	60,000	60,000	0

2	通信運搬費	770,000	770,000	0
3	消耗品費	16,000	16,000	0
4	印刷製本費	2,300,000	2,300,000	0
5	諸謝金	30,000	30,000	0
6	雑費	5,000	5,000	0
3	事務費	39,378,485	38,085,670	1,292,815
1	役員報酬	4,543,280	4,448,480	94,800
2	給料手当	19,336,350	17,226,800	2,109,550
3	退職給付費用	918,400	889,700	28,700
4	福利厚生費	3,718,400	3,385,200	333,200
5	旅費交通費	274,000	277,850	△3,850
6	渉外応接費	289,600	665,100	△375,500
7	通信運搬費	208,900	239,000	△30,100
8	減価償却費	1,709,754	1,752,080	△42,326
9	消耗什器備品費	0	0	0
10	消耗品費	867,500	857,000	10,500
11	修繕費	118,100	115,700	2,400
12	印刷製本費	501,600	495,300	6,300
13	光熱水料諸費	3,269,481	3,898,200	△628,719
14	賃借料	1,344,000	976,500	367,500
15	保険料	55,520	62,460	△6,940
16	支払負担金	766,800	744,400	22,400
17	委託費	500,000	500,000	0
18	雑費	956,800	1,551,900	△595,100
經常費用合計 (B)		225,360,179	229,155,141	△3,794,962
当期經常増減額 (A)－(B)		△34,216,809	△41,782,332	7,565,523
他会計振替額		7,745,461		
当期一般正味財産増減額		△26,471,348		
一般正味財産期首残高		308,684,601		
一般正味財産期末残高		282,213,253		
Ⅱ 正味財産期末残高		282,213,253		

出版事業収支予算書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(単位＝円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 經常収益の部			
(1) 特定資産運用益	11	11	0
(2) 事業収益	14,940,000	14,780,000	160,000
1 購読収益	12,240,000	12,080,000	160,000
2 受取印税	2,700,000	2,700,000	0
(3) 雑収益	1,100	1,050	50
經常収益合計 (A)	14,941,111	14,781,061	160,050
2 經常費用の部			
1 役員報酬	239,760	233,416	6,344
2 給料手当	2,951,080	1,651,164	1,299,916
3 退職給付費用	114,800	77,900	36,900
4 福利厚生費	464,800	296,400	168,400
5 会議費	26,216	13,300	12,916
6 委員会費	279,707	255,939	23,768
7 旅費交通費	28,000	19,950	8,050
8 渉外応接費	11,200	5,700	5,500
9 通信運搬費	856,600	871,000	△14,400

10 減価償却費	6,212,677	5,597,687	614,990
11 消耗什器備品費	0	0	0
12 消耗品費	150,000	137,000	13,000
13 修繕費	8,400	5,700	2,700
14 印刷製本費	5,761,400	5,712,100	49,300
15 光熱水料諸費	403,284	338,200	65,084
16 賃借料	218,000	135,500	82,500
17 保険料	6,640	7,470	△830
18 諸謝金	0	0	0
19 租税公課	1,060,000	1,060,000	0
20 支払負担金	89,600	60,800	28,800
21 委託費	1,500,000	1,418,000	82,000
22 雑費	284,600	613,300	△328,700
経常費用合計 (B)	20,666,764	18,510,526	2,156,238
当期経常増減額 (A) - (B)	△5,725,653	△3,729,465	△1,996,188
他会計振替額	0		
税引前当期一般正味財産増減額	△5,725,653		
法人税・住民税及び事業税	37,630		
当期一般正味財産増減額	△5,763,283		
一般正味財産期首残高	36,164,738		
一般正味財産期末残高	30,401,455		
Ⅱ 正味財産期末残高	30,401,455		

不動産貸与事業収支予算書
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(単位＝円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	1,312	1,311	1
(2) 事業収益	14,158,600	14,170,600	△12,000
1 貸家賃貸料	9,814,600	9,826,600	△12,000
2 貸地賃貸料	4,344,000	4,344,000	0
(3) 受取負担金	3,000,000	3,000,000	0
(4) 雑収益	60,000	500	59,500
経常収益合計 (A)	17,219,912	17,172,411	△11,999
2 経常費用の部			
1 役員報酬	449,760	435,400	14,360
2 給料手当	3,238,950	2,648,360	590,590
3 退職給付費用	127,100	127,100	0
4 福利厚生費	514,600	483,600	31,000
5 会議費	21,700	21,700	0
6 旅費交通費	31,000	32,550	△1,550
7 渉外応接費	12,400	9,300	3,100
8 通信運搬費	22,400	32,000	△9,600
9 減価償却費	4,737,640	4,875,540	△137,900
10 消耗什器備品費	0	0	0
11 消耗品費	75,000	96,000	△21,000
12 修繕費	159,600	209,600	△50,000
13 印刷製本費	27,900	27,900	0
14 光熱水料諸費	3,510,896	3,619,600	△108,704
15 賃借料	186,000	539,500	△353,500
16 保険料	152,560	166,380	△13,820
17 租税公課	2,146,000	2,146,000	0

18 支払負担金	99,200	99,200	0
19 雑費	321,700	61,700	260,000
経常費用合計 (B)	15,834,406	15,631,430	202,976
当期経常増減額 (A) - (B)	1,385,506	1,540,981	△155,475
他会計振替額	0		
税引前当期一般正味財産増減額	1,385,506		
法人税・住民税及び事業税	43,370		
当期一般正味財産増減額	1,342,136		
一般正味財産期首残高	183,125,073		
一般正味財産期末残高	184,467,209		
Ⅱ 正味財産期末残高	184,467,209		

災害見舞金事業収支予算書
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(単位＝円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	42,000,027	40,000,022	2,000,005
(2) 受取会費	3,000,000	3,000,000	0
経常収益合計 (A)	45,000,027	43,000,022	2,000,005
2 経常費用の部			
1 役員報酬	1,408,800	1,369,064	39,736
2 給料手当	5,891,130	4,162,716	1,728,414
3 退職給付費用	278,800	221,400	57,400
4 福利厚生費	1,128,800	842,400	286,400
5 会議費	77,600	287,800	△210,200
6 旅費交通費	68,000	56,700	11,300
7 渉外応接費	27,200	16,200	11,000
8 通信運搬費	69,000	71,000	△2,000
9 減価償却費	290,168	297,316	△7,148
10 消耗什器備品費	0	0	0
11 消耗品費	175,000	268,000	△93,000
12 修繕費	21,000	16,800	4,200
13 印刷製本費	111,200	108,600	2,600
14 光熱水料諸費	1,008,210	996,800	11,410
15 賃借料	408,000	243,000	165,000
16 保険料	9,960	11,205	△1,245
17 支払負担金	217,600	172,800	44,800
18 支払見舞金	15,000,000	15,000,000	0
1 死亡・障害見舞金	9,000,000	9,000,000	0
2 入院・通院見舞金	3,000,000	3,000,000	0
3 自然災害見舞金	3,000,000	3,000,000	0
19 雑費	697,600	87,800	609,800
経常費用合計 (B)	26,888,068	24,229,601	2,658,467
当期経常増減額 (A) - (B)	18,111,959	18,770,421	△658,462
他会計振替額	△7,745,461		
当期一般正味財産増減額	10,366,498		
一般正味財産期首残高	1,297,041,320		
一般正味財産期末残高	1,307,407,818		
Ⅱ 正味財産期末残高	1,307,407,818		

公益社団法人 信濃教育会

令和6年度 代議員（含補欠員）選挙公示

令和6年3月15日

公益社団法人 信濃教育会 代議員選挙管理委員会

定款に則り、令和6年度の代議員選挙を下記のように実施いたします。

記

- 1 本会の正会員であればどなたでも立候補できます。4月1日までに各教育会選出の信濃教育会代議員選挙管理委員会委員（信濃教育会常任委員）までお申し出ください。

令和6年度信濃教育会常任委員が選出されるまでは令和5年度の常任委員が信濃教育会代議員選挙管理委員会委員の責務と権限を有していますが、4月1日以降、申し出先が不明確な場合は各教育会事務局へお申し出ください。

- 2 候補者の受付と公示、投票及び開票の管理・運営は、各教育会の信濃教育会代議員選挙管理委員会委員（信濃教育会常任委員）が行います。

- 3 選挙結果は会報に掲載します。

以上

令和5年度「短期視察研修補助事業」「学び続ける教師への助成」補助金額のご報告

教職員個人や学校現場が抱える課題を解決するための、県内外の学校や教育機関での研修に対する「短期視察研修補助事業」、学術的な調査研究に励もうとする教師や、子どもたちの探究的な学びを実現しようとする教師への「学び続ける教師への助成事業」につきまして下記のとおり補助金額が決定しましたのでご報告いたします。

多くの学校よりご応募をいただきました。有効にご活用いただくと共に、次年度も積極的に応募していただきたいと思います。

短期視察研修補助事業

No.	学校名	氏名	研修先学校・研修内容概略・期間	補助金額
1	中野小学校	萩原 純一	第49回全日本教育工学研究協議会全国大会青森大会 10/27 (金)～28 (土)	20,000
2	島内小学校	田上 達人	小学校英語教育学会全国大会 京都教育大学	20,000
3	湖東小学校	下平 綾乃	奈良女子大学附属小学校	15,000
4	箕輪中学校	宮田真知子	北海道別海町立別海中央中学校	20,000
5	箕輪中学校	藤井 篤徳	国語教育実践理論研究会 第32回 (通算63回) 研究集会	25,000
6	県ヶ丘高校	徳永 佳代	台湾・高雄市教育長及び高雄市立中正高級中学訪問	20,000
7	豊科南小学校	萩原 達也	国立歴史民俗博物館 博学連携による学校ジオトープの活性化	25,000
8	信濃小中学校	伊藤 真紀	第49回全日本教育工学研究協議会全国大会青森大会 10/27 (金)～28 (土)	20,000
9	明南小学校	望月 翔太	防災教育に取り組む宮城県の小中学校 (気仙沼市立大谷小学校、石巻市立青葉中学校) を訪問し、災害に備える取組を行う学校現場の実践に触れる	20,000
10	櫻ヶ岡中学校	小林 敏光	防災教育に取り組む宮城県の小中学校 (気仙沼市立大谷小学校、石巻市立青葉中学校) を訪問し、災害に備える取組を行う学校現場の実践に触れる	20,000
11	信大附属松本小学校	北澤 亮介	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の具現化をいかに図るか	20,000
合計助成額				225,000

学び続ける教師への助成

1 学術的な研究調査に励む教師への助成事業

No.	学校名	氏名	助成内容	補助金額
1	(中野市)日野小学校	松村 貴子	全校で童謡を通して郷土ゆかりの中山晋平を学ぶ	30,000
2	屋代中学校	町田 啓	陸生ヨコエビ類 (主にニホンオカトビムシ) の分布	30,000
3	軽井沢中部小学校	中山 厚志	日本全国の野鳥観察の成果を書籍にまとめる	30,000
4	小布施中学校	今井 智文	教職員の生涯学習及び学び直しについて	30,000
5	更級小学校	大代 孝浩	アサギマダラの生態調査とアサギマダラを生かした教材研究	30,000
6	(千曲市)東小学校	町田ゆかり	戦国時代の遺構「幡塚」について研究し、使われた目的や時代、状況活用していた勢力を明らかにする	30,000
合計助成額				180,000

2 子どもたちの探究的な学びを実現する教師への助成事業

No.	学校名	氏名	助成内容	補助金額
1	伊那小学校	岸田 真紘	ひやっと とろける おいしいジェラートをつくろう	20,000
2	伊那小学校	藤澤 志穂	シルク (カイコ) たちとわたしたちの日々 (案)	20,000
3	伊那小学校	坪木 法子	染～世界に一つだけを求めて～ (仮)	20,000
4	伊那小学校	山崎 千夏	林のオリジナルアスレチックで楽しもう	20,000
5	伊那小学校	長田明日佳	わたしたちのアマゴと過ごす～ アマゴが棲む川を楽しむ	20,000
6	伊那小学校	荒谷 眞治	ものづくりで自分たち、周りの人たちの生活を豊かにしていきたいな	20,000
7	伊那小学校	原 宏典	届けよう！わたしたちの麺 わたしたちの麺料理	20,000
8	屋代中学校	坂戸 朋子	子どもの発想を活かして育てる学び「表現とコミュニケーション」	20,000
9	清明小学校	内藤 大貴	上田市のパンフレットを作ろう	20,000
10	信大附属松本小学校	北澤 亮介	ダンボールでつくるぼく・私のひみつきち	20,000
11	昭和小学校	米澤 雄太	わたしたちとやぎの「りく」の生活	20,000
12	昭和小学校	衣川 之子	SDGs ～竹で作った紙でオリジナルノートを作ろう	20,000
13	神明小学校	小林 真紀	「子どもが主人公の学習 主体的・協働的・創造的に学ぶ子の育成」を目指して探究的な学びを展開している	20,000
14	箕輪中部小学校	高木 政志	アイガモさんを飼って、お米をおいしく育てよう	20,000
合計助成額				280,000

信濃教育会職員の異動についてお知らせします

退 任 内川雅信 (信濃教育会教育研究所部長兼信濃教育会生涯学習センター部長)

内部異動 (前任) 研究調査部部長兼信濃教育会教育研究所部長 竹内 淳 (研究調査部)



青島日本人学校便り



青島日本人学校 小松 直久

中国東北部山東省に位置するここ青島は、どこまでも青い海、ドイツ統治時代の面影が残る赤レンガの旧市街と急速に発展を続ける市街地、そして何ととっても美味しい海鮮と青島ビールが有名な、風光明媚な港湾都市です。人々は優しく、気さくで、笑顔で話しかけてくれる方がとても多いです。

青島日本人学校は小学部中学部合わせて60人ほどの小さな学校です。少人数ならではの特性を生かし、児童生徒一人一人に寄り添い、共に学び、全員が活躍できるように、職員一同力を尽くしています。青島日本人学校は今年度創立20周年を迎えました。昨年11月には、在青島日本国総領事館総領事をはじめ青島日本人会や学校運営理事会の理事の皆様、青島市政府や現地小学校の来賓もお招きして、記念式典を盛大に開催することができました。創立時は中国の学校施設を間借りし6名の児童でスタートしました。新校舎を建て、現在に至るまで、本校を支えてくださった在外公館の皆様、各企業の皆様、保護者の皆様のお力添えは、大変大きいものがあります。そのつながりの深さは、外国の地で運営される日本人学校ならではのかもしれません。

青島日本人学校の大きな特色の一つには、現地の小中学校等との交流に力を入れている点が挙げられます。日中関係が冷え込んだ時期もありましたが、現地教育局・小中学校など、心ある皆様の御理解をいただき、子どもたち同士の心温まる文化交流を実施することができました。小学部は普段から力を入れている和太鼓演奏を披露したり、折り紙や日本の遊びなどをしたりして交流しました。普段勉強している中国語や英語を使ったり、時にはジェスチャーを交えたりしながら一生懸命に伝えようとする子どもたちの姿がありました。子どもたちの外国語教育への意識も高いです。中学部は英語を使って現地の中学生と交流をしています。司会進行やルール説明等、すべて英語で行い、日ごろの学習の成果を発揮するとともに、日本と中国のそれぞれの文化を伝え合いました。また中学部では今年度初めて地元の大学生との交流もスタートさせ、多文化理解への新たな一歩を踏み出しました。日本人学校ならではの体験を通して、国際色豊かな子どもたちが育っていることを感じています。

私が青島日本人学校に赴任させていただき、改めて学んだことの一つは「お互いを尊重し違いを認め合う」ということです。相手を知ろうと一歩近づいたとき、相手も心を開いてくれることを感じています。長野県で学んだことを青島日本人学校で活かしたことは大変幸運なことでした。今後も目の前の子どもたちの成長のために、精一杯努めてまいります。



旧市街から青島の街並みを望む



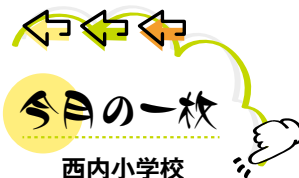
現地校との交流



太鼓演奏



開校20周年記念式典



西内小学校

西内小学校の三本柱は、登り窯、金管バンド、地域自然活動です。二月上旬、焼き上がった陶芸作品に登り窯から取り出しました。三日三晩寝ずに焼き上げる窯たきは、西内小ならではの一大イベントとして地域に根付いています。今年も力作が勢揃いしました。



信濃教育

予告



子ども達が教えてくれたこと
教職のやりがい

四月中旬に制作した「学校に咲いた桜の絵」に続き、二学期に取り組んだ二度目の水彩画の題材は「心に残っている生き物」でした。すぐに先日、家族で夕食に行ったタラバガニのことが目に浮かび、6Bの鉛筆を持って、目から甲羅へと下描きを始めました。一本一本の足を丁寧に、そして影を付けながら描き進めました。最後に力二が乗ってきた皿、食べるのに使った箸を持つ手、調味料のポン酢を描いて下描きが完成です。色塗りは、力二が立体

的に見えるように白色の部分を手早く残し、赤色も少しずつ色を変えるために、パレットでいろいろな色を取りながら塗っていました。最後に、薄い水色を塗ることでより立体的な作品に仕上がりました。題名は、力二のおいしさと値段にも驚いたことから『最高の晩餐¥3500』としました。作品を見返しながら、満足気に「最高にうまかったな。また、行きたいな」とつぶやいていました。

指導者
齊藤 博正（宗賀小学校）

100年館の絵

令和4年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「最高の晩餐¥3500」
中野 遥斗（宗賀小6年）

信濃教育博物館所蔵

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。



公益社団法人
信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町 1098 TEL 026(232)2470
URL <https://shinkyō.or.jp> ✉ shinkyō@shinkyō.or.jp
編集兼発行人／武田 育夫

